

2019年5月22日

各 位

会社名 日本ライフライン株式会社
代表者名 代表取締役社長 鈴木啓介
(コード番号 7575)
問合せ先 常務取締役管理本部長 高橋省悟
(TEL. 03-6711-5200)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2019年5月22日開催の取締役会において、下記のとおり2024年3月期を最終年度とする5ヵ年の中期経営計画を策定いたしましたのでお知らせいたします。
当該計画の内容につきましては、添付資料をご参照ください。

記

1. 対象期間

2020年3月期から2024年3月期（5ヵ年）

2. 計画の策定方法及び前提条件

当社の中期経営計画は、変化する経営環境に迅速に対応するとともに、中長期的な視野に立ち、安定的な成長を図るため、計画の終期を固定せずに、年度予算を初年度とする5年間の中期経営計画について、毎年更新を行う策定方法をとっております。

策定時点における販売契約、開発及び治験等の状況を踏まえて販売計画を作成しており、販売契約が締結されていない商品や、上市時期が特定されていない商品は計画値に含めずに作成しております。また計画期間における保険償還価格の改定を予測し、計画に織り込んでおります。

3. 中期経営計画の基本方針

- (1) 自社製品のさらなる拡充
- (2) 仕入商品のパイプライン確保
- (3) 研究開発・生産体制の強化
- (4) 循環器以外の新領域の開拓
- (5) 海外展開

4. 業績目標（2024年3月期）

連結売上高 894億円 営業利益率 23%

以 上

中期経営計画 説明資料

2019/5/22

日本ライフライン株式会社

2020/3期計画および本日の開示について

常務取締役管理本部長

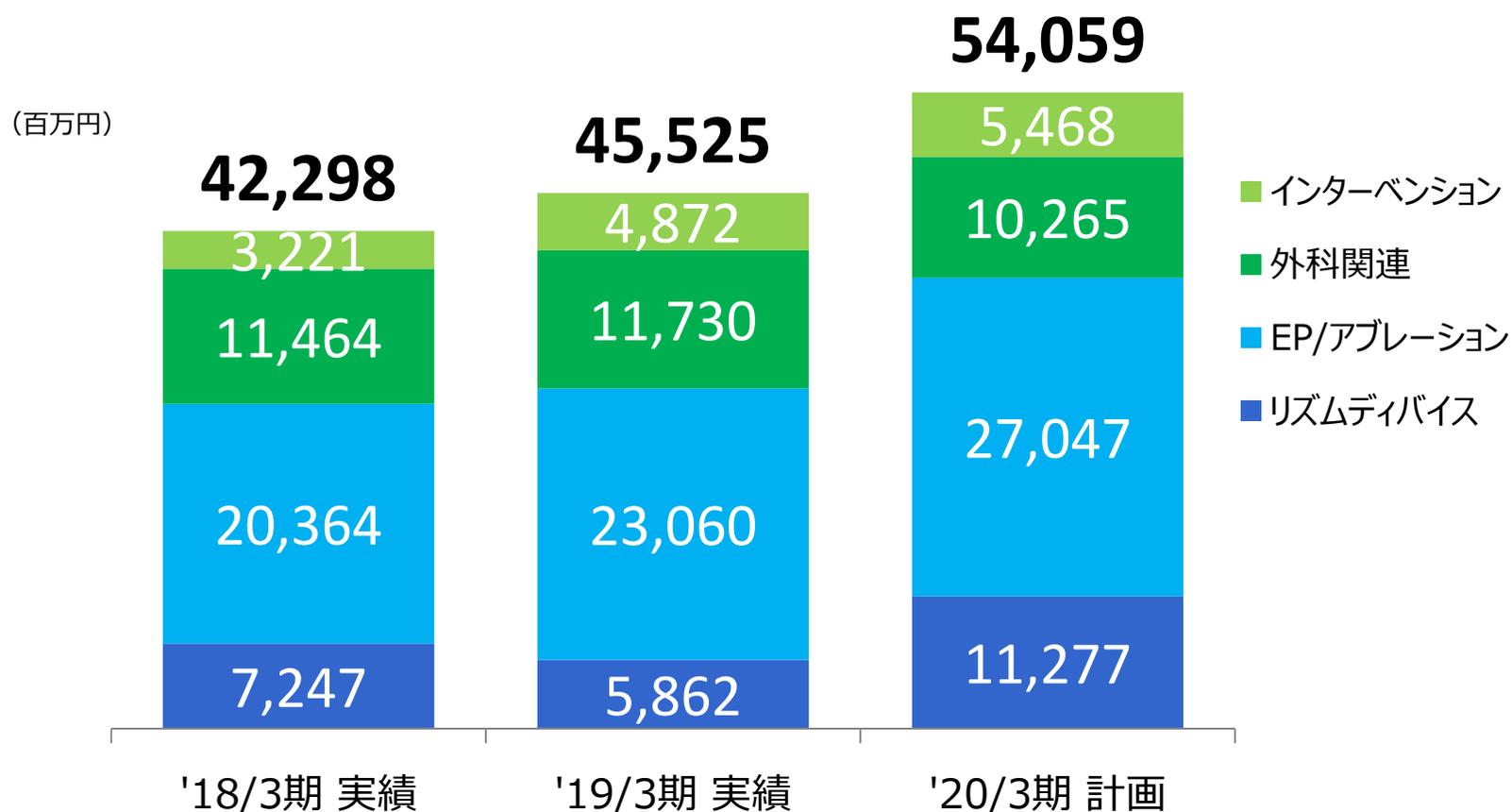
高橋 省悟

2020/3期 連結業績予想

- ・大幅増収となるも、BSC社（ボストン・サイエンティフィック社）のCRM製品への契約切替え時期であり、一時的な収益性の低下を見込む

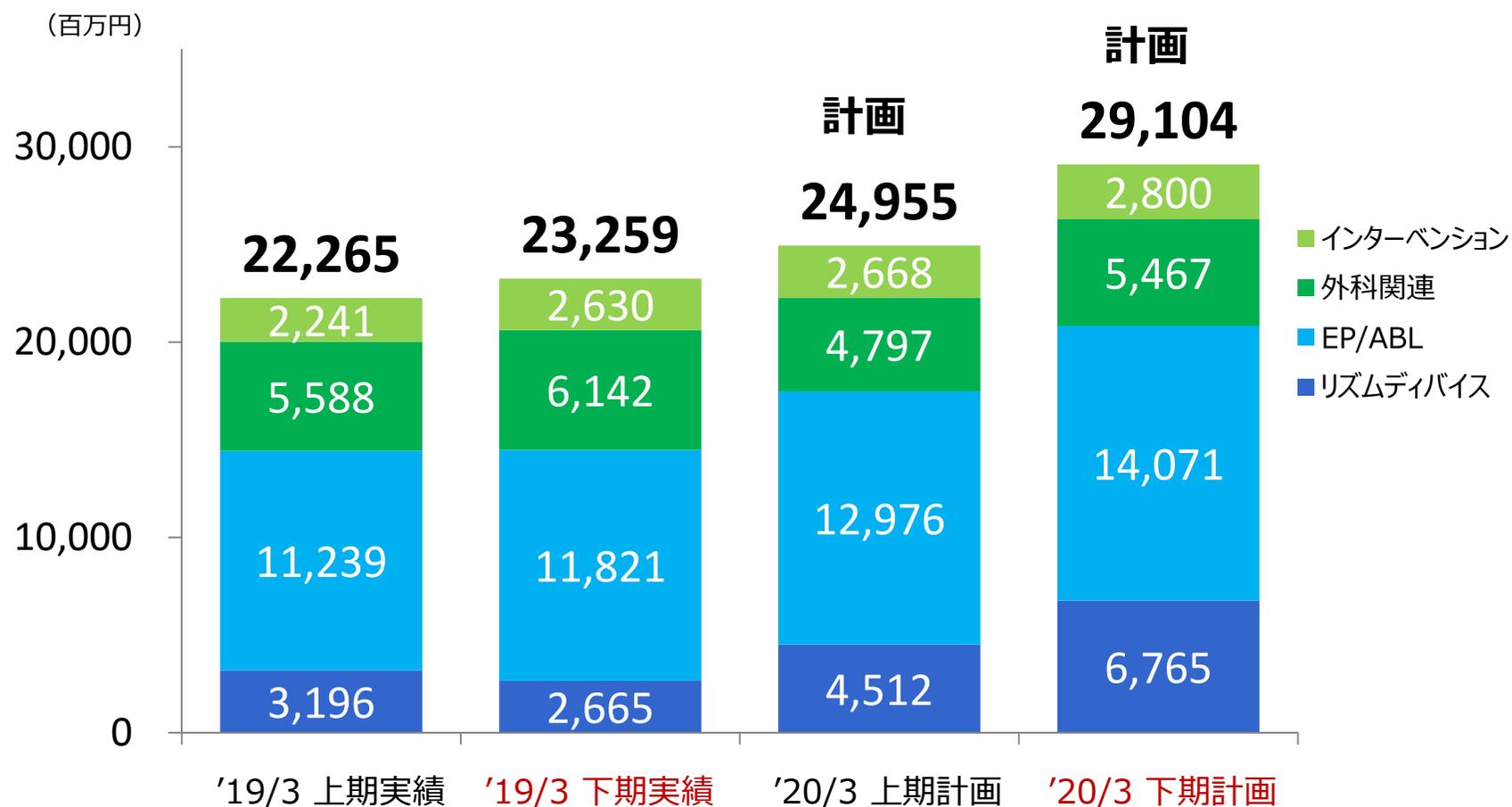
(百万円)	'18/3期 実績	'19/3期 実績	'20/3期 計画	前期比
売上高	42,298	45,525	54,059	+18.7%
売上総利益	26,576	27,822	30,600	+10.0%
売上総利益率	62.8%	61.1%	56.6%	△4.5pt
営業利益	10,671	10,526	10,465	△0.6%
営業利益率	25.2%	23.1%	19.4%	△3.7pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,478	7,723	7,747	+0.3%
当期純利益率	17.7%	17.0%	14.3%	△2.7pt

- BSC社製品への切替えによるリズムデバイスの倍増
- EP/ABLの堅調な成長が続く



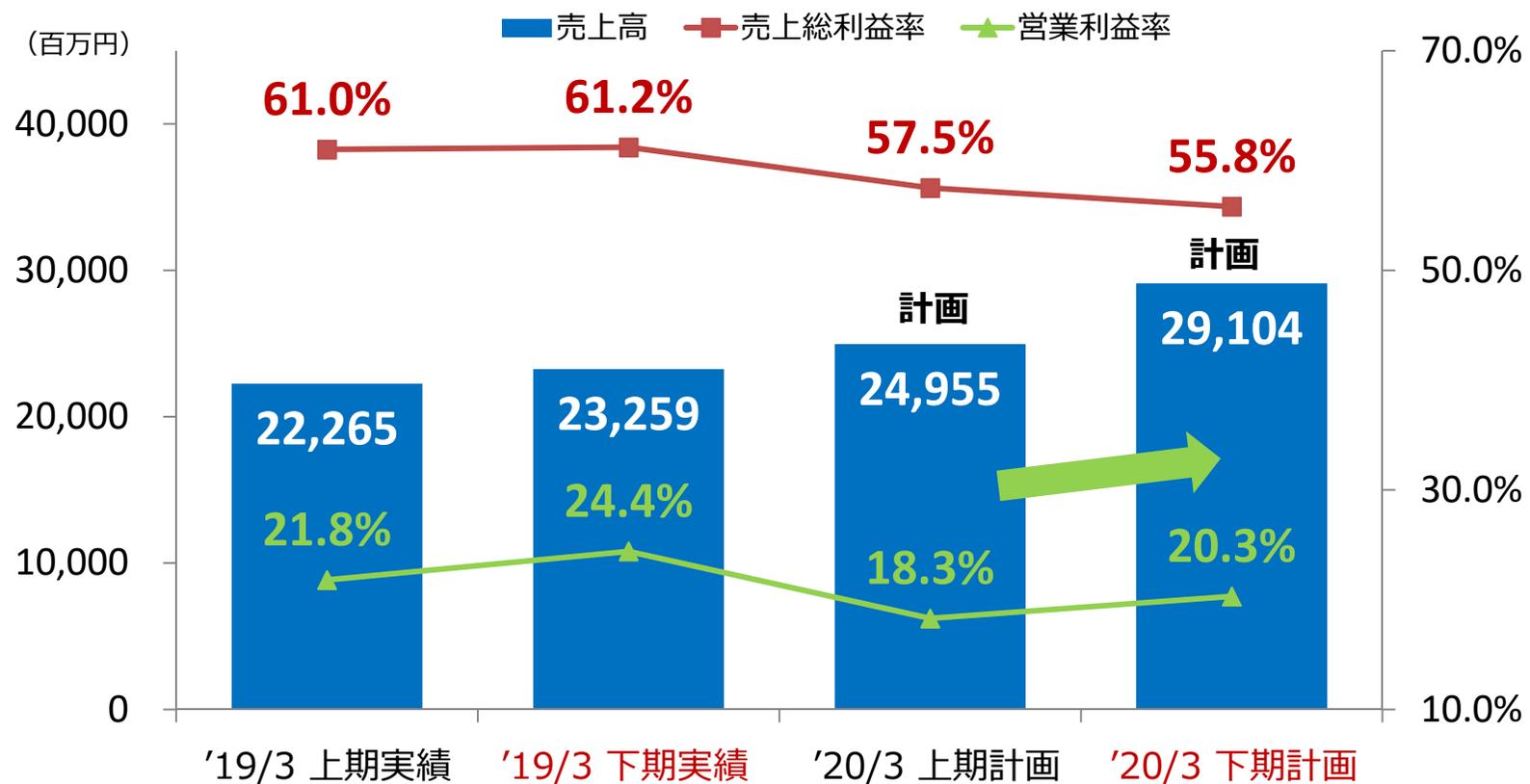
品目別売上高 半期推移 2019/3期-2020/3期

- リズムデバイスは9月からBSC社製品のフルリリースを開始
- 外科関連は一部品目の独占販売終了
(胸部SG* '19/3、人工弁 '19/5)



*SG: ステンントグラフト

- 仕入商品の増加、公定価格の改定（10月）により売上総利益率は低下
- 下期からBSC社製品が寄与し、費用増を吸収し営業利益改善を見込む



当下期から来期にかけて収益性が改善

第2回新株予約権（完了済み）

発行日 2017/12/21 *1

予約権総数 30,000個（対象株数 600万株 *2：自己株式充当）

行使完了日 2018/1/26

調達額 138億5千6百万円
（行使前日の終値の92% 払込金40百万円含む）

調達資金の用途 BSC社製品独占販売契約、メーカーへの貸付金、新商品初期在庫、工場建設（マレーシア、小山ファクトリー第2棟）

成長のための大型投資資金は一定の調達が完了

*1 2017/11/30付 「第三者割当による行使価額修正条項付第2回及び第3回新株予約権（行使指定・停止指定条項付）の発行に関するお知らせ」

*2 2018/1/1付 1:2分割

第3回新株予約権（取得・消却を決定）*1

発行日 2017/12/21

予約権総数 10,000個（対象株数 200万株 *2：自己株式充当想定）

行使完了日 未行使（停止指定が行われた状態で発行）

調達額 行使前日の終値の92%（払込金13百万円有り）

停止指定解除条件 決算短信等において当社の一会計年度の連結売上高の実績（または予想）として550億円以上を開示した場合に停止指定が解除される。

第2回により大型投資資金は調達完了、第3回は取得・消却

*1 2019/5/22付 「第3回新株予約権（行使価額修正条項付新株予約権）の取得及び消却に関するお知らせ」

*2 2018/1/1付 1:2分割

保有自己株式の消却を決定

消却する株式の種類	当社普通株式
消却する株式の総数	5,000,000 株 (消却前の発行株式総数に対する割合 5.53%)
消 却 予 定 日	2019/5/31

(ご参考)

2019/3/31時点の 所有自己株式数	10,005,712 株
自己株式消却後の 発行済み株式総数	85,419,976 株

中期経営計画

2020/3期～2024/3期

代表取締役社長

鈴木 啓介

メーカー機能

医療現場のニーズを反映した
自社製品の開発

商社機能

海外の最先端の
医療機器の探索・商権獲得

医療機器の早期導入を支える薬事戦略

全国を網羅する営業ネットワーク

規模拡大と収益性確保を両立
高水準での成長を目指す

- ① 自社製品のさらなる拡充
- ② 仕入商品のパイプライン確保
- ③ 研究開発・生産体制の強化
- ④ 循環器以外の新領域の開拓
- ⑤ 海外展開

当社中計はローリング方式を採用

- 計画値には上市時期が特定されていない商品/製品は含まない
- 販売契約、開発、治験等の最新の状況を踏まえ更新
- 保険償還価格の想定

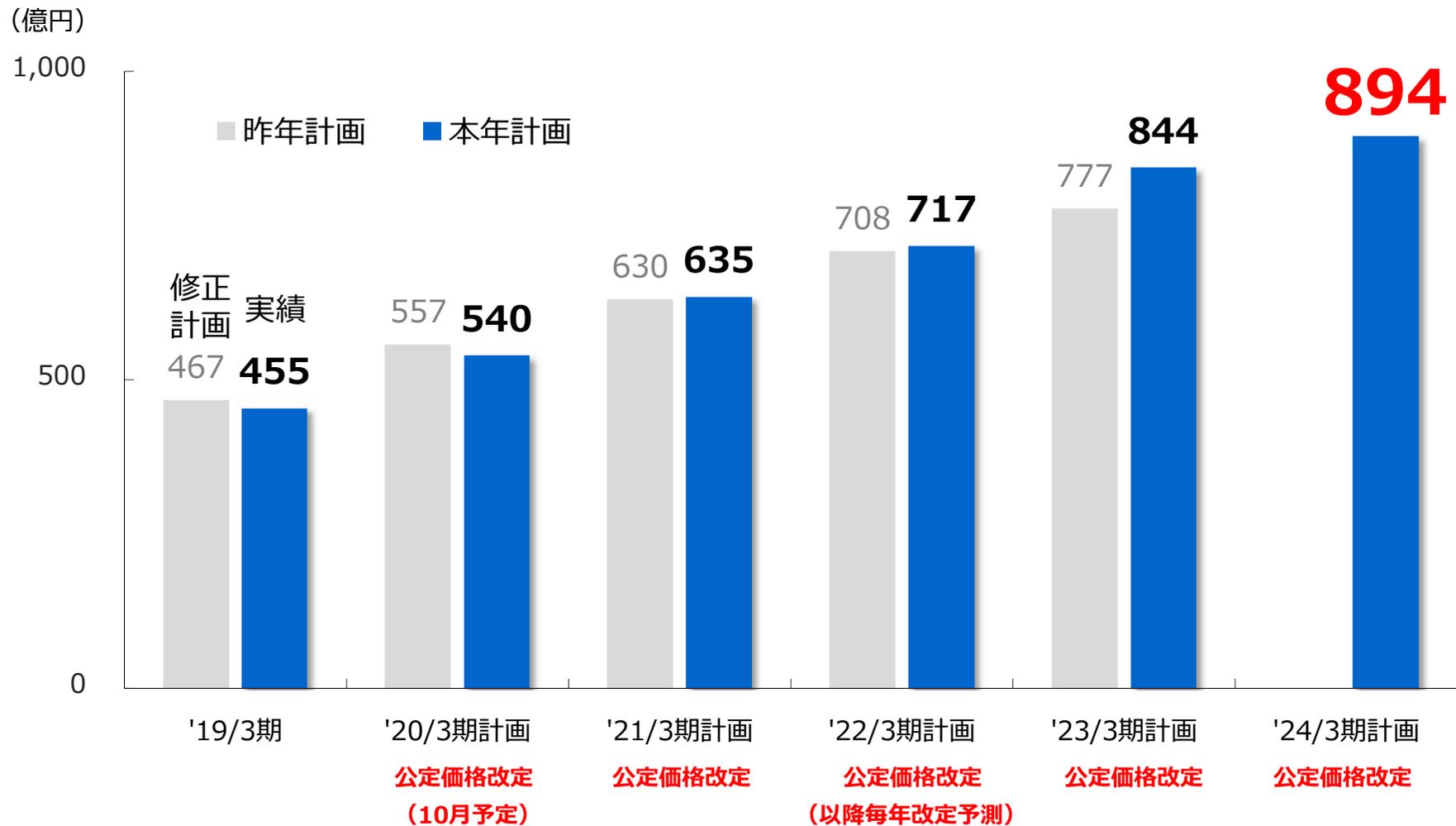
2019/10：消費税改定に伴う改定

2020、2021*、2022、2023の各年4月に改定を見込む

(*2021年からの毎年改定を予想)

事業環境の変化へ迅速に対応

中期経営計画 業績目標



※計画値には上市時期が特定されていない商品/製品は含まない

<昨年計画>

2018/5/29公表

2023/3期

連結売上高

777億円

営業利益率

25%

<本年計画>

2019/5/22公表

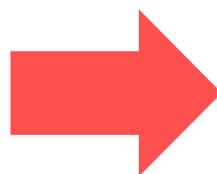
2024/3期

連結売上高

894億円

営業利益率

23%



リズムデバイス

- BSC社製品への切り替え、中長期の成長基盤が整う
- S-ICDの取扱を先行し、全面的な販売開始に向け準備を進める

EP/アブレーション

- AF*症例増加が続き、自社製品の安定的な拡大を見込む
- 内視鏡レーザーアブレーションカテーテルは次世代品の寄与を見込む

外科関連

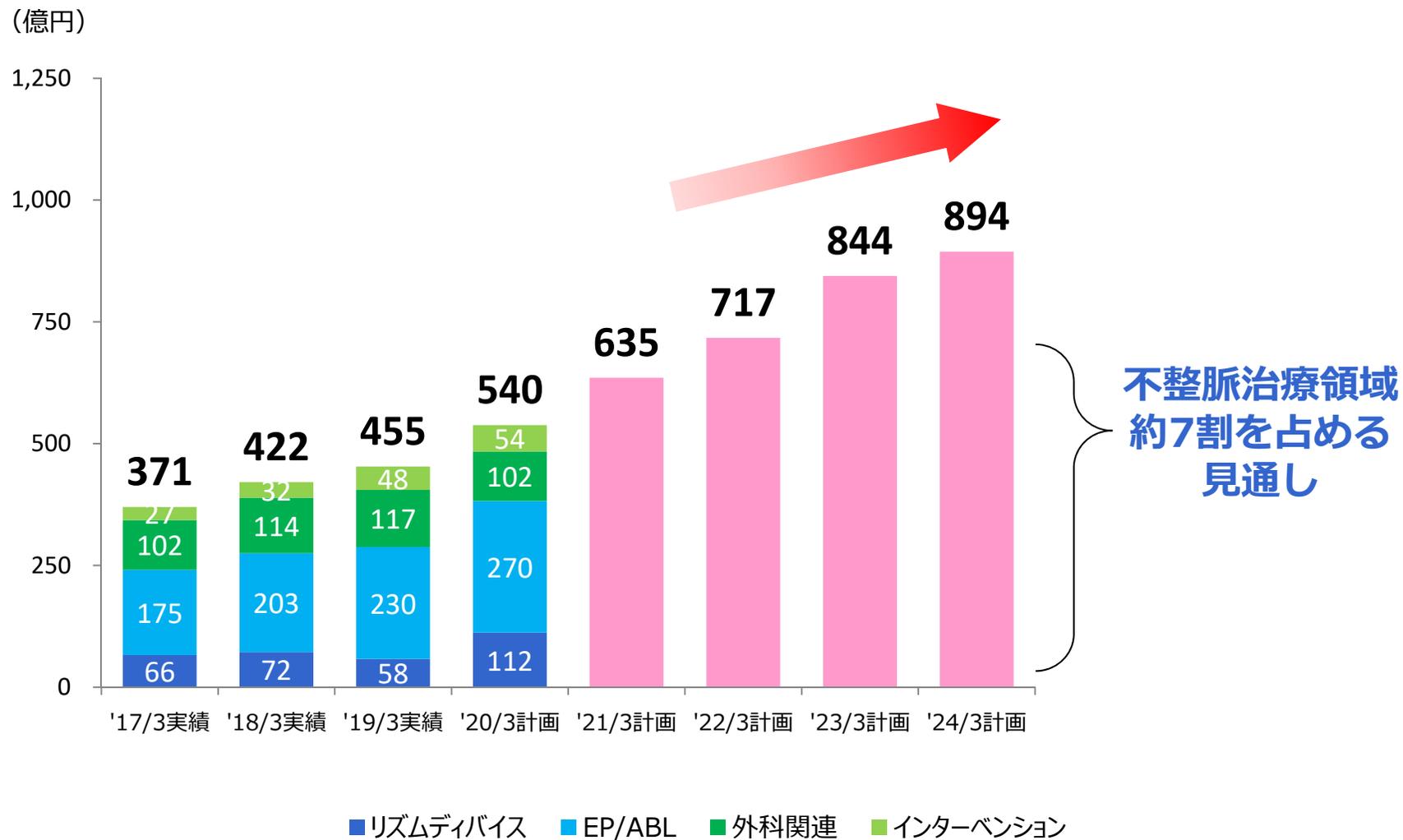
- 人工弁ビジネスは2019/5末終了、人工血管関連に経営資源を集中
- 大動脈治療領域における豊富なラインナップを訴求

インターベンション

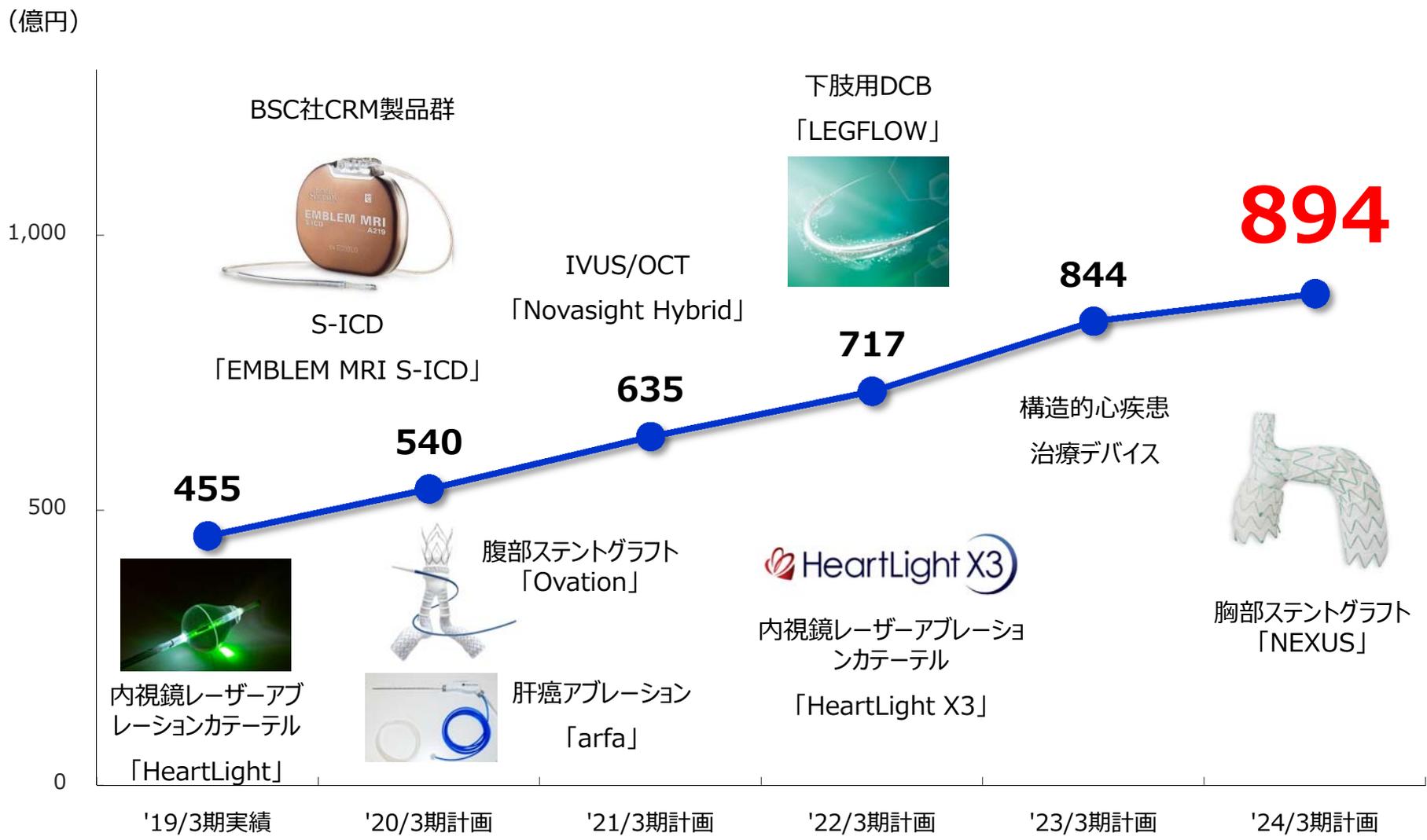
- DESは一定のシェアを獲得
- 新領域の開拓を進める（消化器、構造的心疾患領域）

*AF: Atrial Fibrillation（心房細動）

不整脈治療領域が成長の確かな土台となる



中期経営計画 商品パイプライン (一部)



上記以外にも複数の商品導入・開発計画が進行中

- ① **BSC社製品によりCRM事業の規模拡大を図る**
- ② **S-ICDはじめ優れた頻脈治療の製品群で成長に拍車**
- ③ **将来的に大幅なマーケットシェアの拡大を目指す**
- ④ **BSJ社*への営業支援金の支払**
- ⑤ **BSJ社の全CRM営業人員が当社に出向、将来的に当社への転籍を予定**

*ボストン・サイエンティフィック ジャパン社

グローバル市場で高評価のBSC社製品への切替え

- 頻脈治療領域で世界的にも高い評価を得る
- BSC社の研究開発力を当社のパイプラインへ取り込む
- 徐脈治療中心のビジネスから徐脈・頻脈を合わせた総合的な商品提供を実現

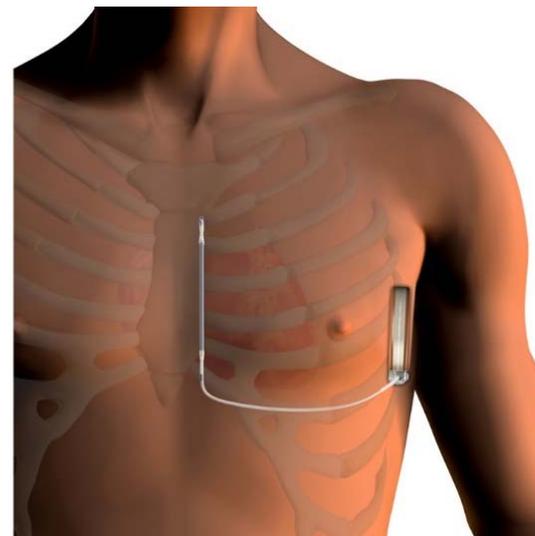
**長期的パートナーシップで
トップクラスのシェア獲得を目指す**

完全皮下植込み型除細動器 S-ICD 先行販売

- オンリーワン商品「EMBLEM MRI S-ICD」
- 一般的なICDと異なり心臓血管系に触れず、リードに伴う合併症を大幅に抑制
- 2019/4から販売経験を重ね、9月からの本格販売へ



「EMBLEM MRI S-ICD システム」



S-ICD 植込みイメージ

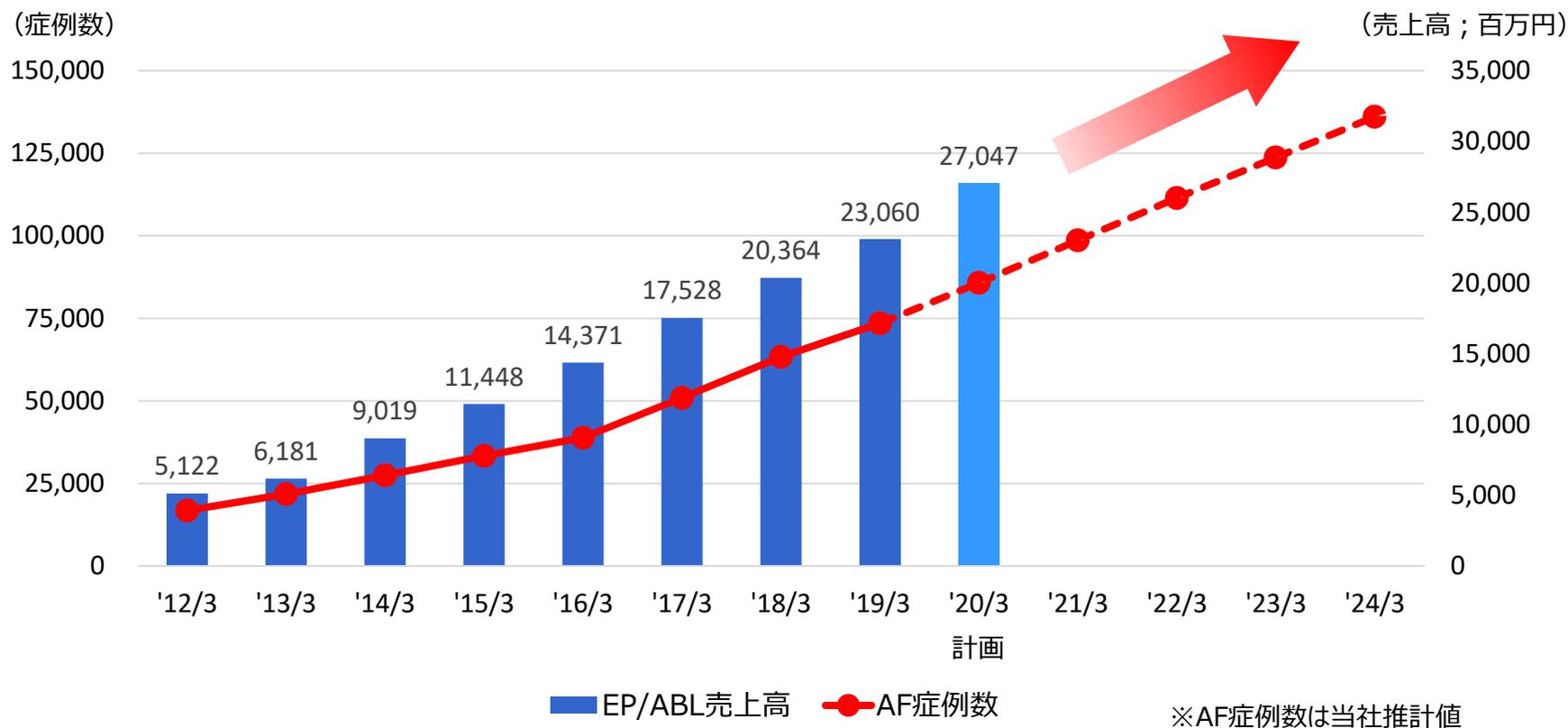
オンリーワン製品で頻脈治療領域を早期に開拓

- ① **AF*のアブレーション症例数は引き続き二桁を超える増加を見込む**
- ② **症例数増加を背景にオンリーワン商品がさらに伸長**
- ③ **内視鏡レーザーアブレーションカテーテルの普及を図る**
- ④ **既存自社製品の改良・拡販**

*AF: Atrial Fibrillation (心房細動)

EP/ABL AFアブレーションの症例数予測

- ・ AF症例数は二桁増が継続、2024/3期には13万例を超えると予想
- ・ 評価が高い検査用商品のほか、今後は治療用商品の寄与も見込む



さらなる成長を目指し治療用商品に注力

- 内視鏡レーザーアブレーションカテーテル
- 「HeartLight」
- CardioFocus社製
- 2018/7より販売
 - 内視鏡で肺静脈を直視可能
 - 焼灼レーザーの出力調整が可能
 - 多様な肺静脈形状へ適合



内視鏡レーザーアブレーションシステム
「HeartLight (ハートライト)」
左：カテーテル 右：コンソール

- 洞調律維持率は症例1年後80%以上、長期成績にも期待
 - 1年後 82% 2年後 76% 3年後 76% 4年後 75%*

症例に応じた最適な治療を提供

*[Europace doi:10.1093/europace/euu168 [Visually guided laser ablation: a single-centre long-term experience]]

次世代製品の導入を急ぐ

- 内視鏡レーザーアブレーションカテーテル
- 「HeartLight X3」
- モーターコントロールされた連続的なレーザー焼灼
- 焼灼レベルの調整と手技時間の大幅な短縮を両立
- 肺静脈1本を3分で隔離、手技時間は60.8分を実現*
- 2022/3期の上市を目指す



**競争力の高い次世代品の導入を控え、
内視鏡レーザーアブレーションの普及に努める**

*CardioFocus社の調査資料に基づく

IVC*アプローチ用
BeeAT



Catheter for
Atrial Cardioversion System SHOCK AT
BeeAT
Via IVC approach

2019/2フルリリース

左手用
スティーラブルシース



Guidee
Leftee

2019/7上市予定

BeeAT用
新ジェネレータ



SHOCK AT α

2020/1上市予定

国産メーカーとして
医療現場のニーズにきめ細かく対応

*IVC : 下大静脈

- ① 人工弁ビジネスは2019/5末で終了
- ② 腹部大動脈SG Nellixの導入は延期となる見込み
- ③ 自社製品オープンステントグラフトの海外展開
- ④ 胸部用ステントグラフトの早期導入

Nellixの導入は延期となる見込み

- 適応遵守症例の術後成績は良好、ただし適応外症例へ使用した一部の遠隔期データが悪化
- 製造元の自主的な判断で一時的に販売を延期
- 米国治験は継続して実施中だが、国内導入は遅れる見通し

当中計期間からは除外するも、導入準備は継続

オープンステントグラフト「FROZENIX」

- オンリーワン自社製品
- 低侵襲治療方法としての評価を確立
- 累積症例数は10,000例を超える



4分枝カフ付き製品を開発

- 4分枝人工血管との吻合が不要
- 手技時間の短縮に寄与

オープンステントグラフト
「FROZENIX」



海外販売に向けて取り組む

- 台湾 導入施設の拡大に注力
- 欧州 CEマーク取得の取り組みを継続

数多くの実績が優れた臨床効果を示す

胸部用ステントグラフト市場への再参入

- 分岐付き胸部用ステントグラフト「NEXUS」
- Endospan社製
- 手技の簡便化と合併症リスクの低減に期待
- 既にCEマークを2019/2に取得
- 2024/3期の上市を目指す



分岐付き胸部用ステントグラフト
「NEXUS」

**大動脈治療における豊富な実績を基に
魅力ある製品を導入**

- ① 薬剤溶出型冠動脈ステントの拡販
- ② 下肢用DCB*¹の早期上市に向け取り組む
- ③ IVUS/OCT*²によるイメージングデバイス分野へ参入
- ④ 新領域の開拓として、消化器領域へ注力
- ⑤ 構造的心疾患領域の商品ラインナップの拡充を図る

*1 Drug Coating Balloon

*2 IVUS (intravascular ultrasound: 血管内超音波検査)、OCT (Optical Coherence Tomography: 光干渉断層法)

薬剤溶出型冠動脈ステント

- 生体吸収性ポリマーの第3世代DES「Orsiro」
- 販売開始1年で約7%の市場シェアを獲得

臨床試験CASTLE Study*を開始

- 留置後12ヶ月における標的病変不全発生率を競合製品と比較
- 2019/5/17に第一例目の登録が完了
- 2022/10のTCTでの発表を目指す



薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro（オシロ）」

*Randomized Comparison “All-Comers” Study of Ultra Thin-Strut and Thin Strut Drug-ELuting Stents

末梢用DCBの導入準備を進める

- 下肢用（BTK*）薬剤溶出バルーンカテーテル
- 「LEGFLOW」
- CARDIONOVUM社製
- 薬剤パクリタキセルが再狭窄を抑制
- 2022/3期上期の上市を目指す



下肢用DCB
「LEGFLOW」

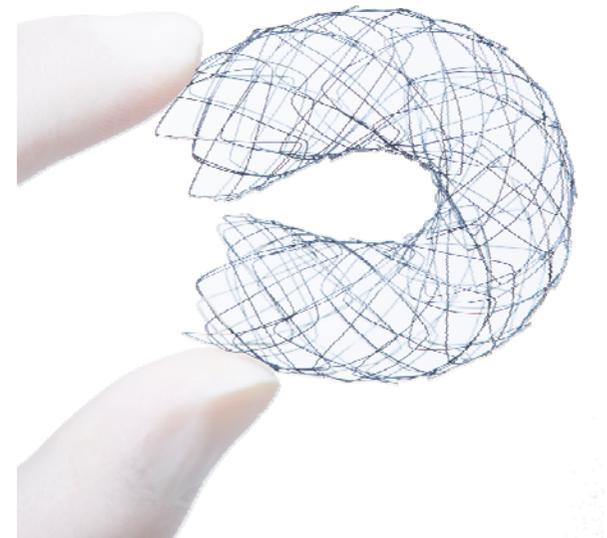
モダリティへの参入を計画

- IVUS/OCTハイブリッドシステム
- 「Novasight Hybrid」
- Conavi Medical社製
- 同一カテーテルでIVUS・OCT両方の画像を取得
- 2021/3期上期の上市を目指す

*Below the Knee

大腸ステント導入により消化器領域を開拓

- 大腸ステント「JENTLLY」
- 2017/6発売、2018/1フルリリース
- 自社製品であり、唯一の国産製品
- オープンステントの技術を応用
- 胃・十二指腸用ステントも計画



大腸ステント「JENTLLY」

循環器領域から他領域への展開を図る

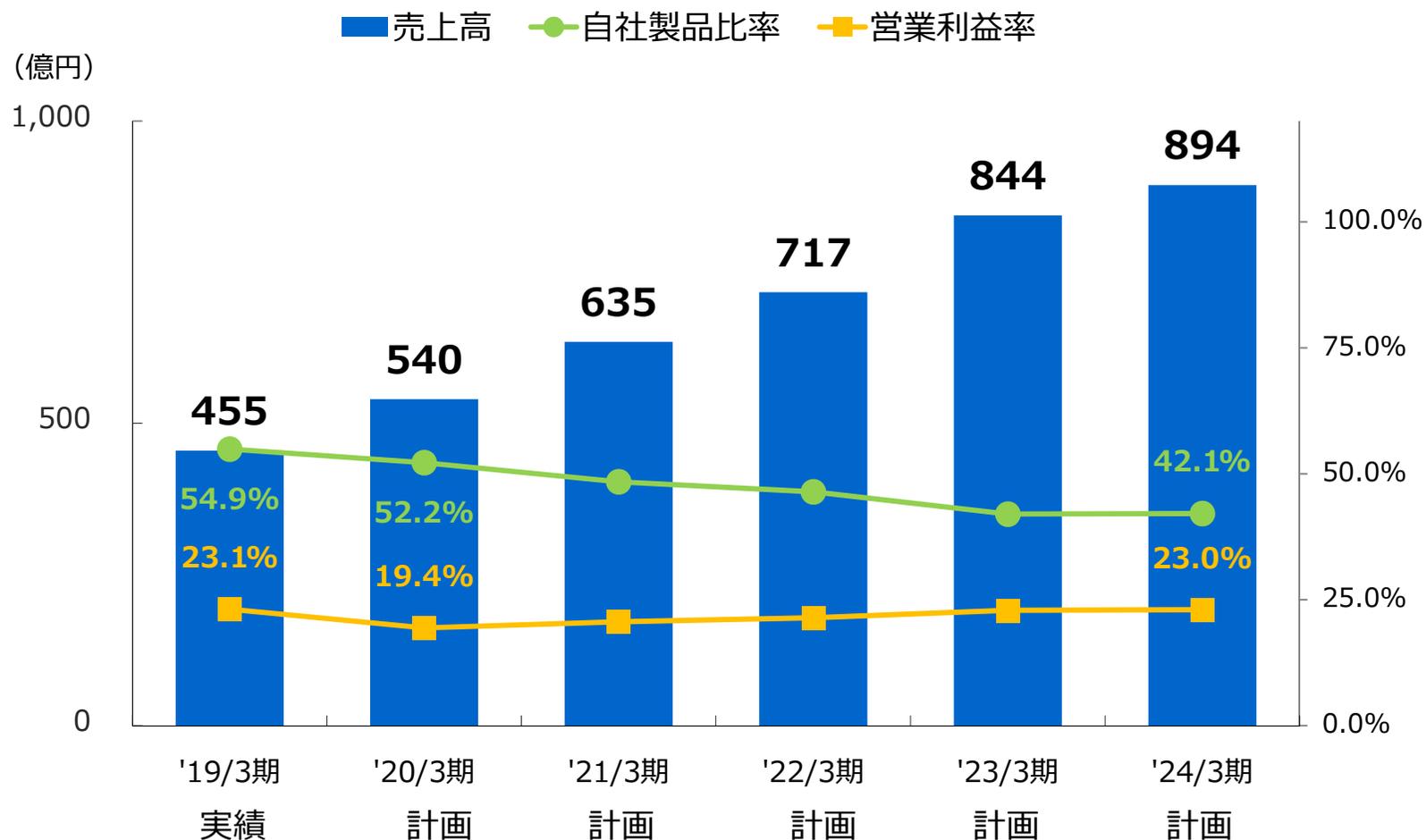
自社製品技術を応用し癌治療分野へ

- 肝癌治療用ラジオ波焼灼システム「arfa」
- アブレーション焼灼技術を活かし高い操作性を実現
- 当期3Qの販売開始を目指す

arfa



仕入商品の拡大により、自社製品比率は低下



自社製品への注力を高め、さらに収益性向上を目指す

研究開発

リサーチセンター (戸田市)



中核工場

戸田ファクトリー (戸田市)



海外工場①

シンセン工場 (中国シンセン市)

子会社
SYNEXMED社

血管・OSG生産

市原ファクトリー (市原市)



量産対応

小山ファクトリー (小山市)



第2棟が'20/4 稼働予定

海外工場②

マレーシア工場
(マレーシアペナン州)



'20/1 稼働予定

自社製品を支えるメーカー機能の拡充が進む

マレーシア工場の建設

- 生産面の海外展開
- 将来的に輸出の中核工場へ
- 増産対応、生産の複線化
- 2020/1の稼働を目指す
- 投資額は約20億円（うち土地約2億円）
- 2021/3期から連結見通し



小山ファクトリーは第2棟を建設

- コア技術を国内で拡充
- 取得済み工場用地を活用
- 2020/4の稼働を目指す
- 投資額は約20億円



**BSJ社との契約締結により、
不整脈治療事業における中長期的成長を確保**

**今後、自社製品への注力を通じて、
一層の成長を目指す**

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に係る、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社

経営戦略部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<http://www.jll.co.jp>